

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スイッチ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2025 年 5 月 12 日		～	2025 年 5 月 20 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2025 年 4 月 14 日		～	2025 年 4 月 21 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025 年 5 月 27 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種（保育士、看護師、作業療法士、介護福祉士）がいるため、各分野の専門視点から支援プログラムを立てている	毎月1回の職務会議で情報共有及び支援の方向性を確認しています	専門性を高めるために、各職種ごとの研修を取り組む予定です
2	開所したばかりで児童：職員の数に差がないため、手厚い支援を行っています	個別支援プログラムを策定し、児童とマンツーマンで行う体制が取れています	児童の特性に合わせた支援提供ができるよう適正な人員配置を行います
3	施設内が広く、同じ大きさの庭もあるため児童の行動を制限することなく伸び伸びと過ごすことができます	動ける部屋と制作など落ち着いた活動をする部屋で分けて支援を行っています 外活動では交通面を気にすることなく遊ぶことができます	施設内の構造をわかりやすく可視化できないか検討しています。また、外活動の療育種類を増やせるよう努力します

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員1人1人の療育力、専門性の古城など事業所全体で底上げが必要である	個別活動や小集団活動においては児童の様子に応じて臨機応変に支援プログラムを組み立てる力が必要なため、個々の経験や知識によって偏りが生じやすい	研修に参加できる機会を増やし強化を図っていく 経験ある職員が不在であるため、他事業所交流等で直接支援豊富を見学し学んでいく
2	保護者会や家族支援プログラムなどの未実施 事業所と保護者との交流機会が少ない	保護者会や保護者プログラムの未企画	保護者同士の交流の場をもうけ、保護者様が気軽に足を運んでいただけるようなプログラムを提供していく
3	非常災害時対策の周知が不十分である	非常災害時の対応、職員間での周知方策が不十分である 訓練実施について見える化できていない	定期的に避難・救出訓練を行い、児童の安全を守る取り組みについても保護者と共有できるよう発信する